

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3171600269
法人名	社会福祉法人 寿耕会
事業所名	チロルの里 グループホーム
所在地 (電話番号)	鳥取県日野郡江府町大字久連7番地 (電話) 0859-75-2126

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成21年8月5日	評価確定日	平成21年8月27日

【情報提供票より】(21年 7 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(7 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日野病院 江尾診療所
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大山の懐深く、奥大山と呼ばれる名水の地、江府町の日野川沿いに立つチロルの里グループホームは、平成16年11月に開設。併設の施設に特別養護老人ホーム、認知症型デイサービスがあり、連携体制が確立している。医療面においても江尾診療所、日野病院が協力機関となっており、本人と家族の安心を支えている。「家庭的な雰囲気の中で地域と共にその人らしい普通の暮らしを支援いたします」と理念に謳われているように、利用者は表情も良く、職員の異動が少ないこともあり、穏やかで温かみのある暮らしを支援されている。月2回の音楽療法や習字、手芸教室などの特色を持ち、利用者の活力を引き出す工夫も随所に見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員で理念を再考し、今回地域密着型サービスとして意識した理念が掲げられていた。地域とのつきあいについて保育園・小学校との交流も継続されている。民生委員からの支援、またホーム管理者が認知症講座の講師を受けるなど相互の関係作りが認められる。介護計画の見直しについては、必要な関係者の意見を反映し作成できている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は外部評価の意義を理解しており、前回の評価結果についてミーティング、運営推進会議で議題として取り上げ、改善に向けて話し合っている。自己評価に対しては積極的に取り組んでいることがうかがえる。できれば職員全員が評価項目についての理解を深め、自身のケアの振り返りを行うことが有意義な活用となります。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1度開催される運営推進会議は、施設の職員、民生委員、地域住民が主なメンバーであるが、利用者の参加もみられる。運営報告、行事報告、外部評価報告等なされ、意見交換が行われている。今後、町の担当課、社会福祉協議会をはじめ幅広く地域の諸施設、住民に参加声かけし、地域でホームを支えてもらえるようはたらきかけ、そして町の資源としてホームが社会的役割を果たしてゆくことが期待される。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>遠方に在任する家族も少なくない中、ホームの熱心なはたらきかけにより来訪する家族・親近者がある。法人の開催する行事や、ホームのレクリエーション、日々の連絡を通して意見を言い易い関係づくりに努めている。東郷温泉と観劇をセットにしたレクリエーションは家族からのリクエスト。希望にはすみやかに対応している。居室担当者の変更や利用者の状態、金銭に関しては必ず月に1度は報告し、必要があれば随時報告している。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園・小学校との交流をはじめ、民生委員の力添えて敷地内に畑が完成。併設の施設における利用者の音楽発表会や地域住民との交流行事を通して関係作りを積み重ねている。町に依頼され、管理者による認知症講座も予定されている。今後さらに町唯一のホームが発信源となり、地域を巻き込んでゆくことが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で、地域と共にその人らしい普通の暮らしを支援いたします」職員で話し合っ見直された、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示しているほか、ミーティングにおいて取り組みについて確認をしている。新しい職員のケアの指針もなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員数名の力添えにより念願の畑が敷地内に完成した。保育園の運動会に参加、小学生の来訪、こちらから手作り品をプレゼントするなど交流を継続している。法人の開催する納涼会開催の他、町の文化祭への参加がある。民生委員より散歩の付き添いなど支援の申し出があり連携を深めつつある。	○	広報誌作成の構想があり、地域にさらに周知の機会が期待される。町民にとって有意義な内容であれば全戸配布も町より許可される。あるいは、利用者と共にポスティングする試みは如何。職員間でまた運営推進会議でアイデアを出し合い、地域の一員として小さな事から地道に取り組まれない。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果についてミーティングで話し合ったり、運営推進会議で議題にあげるなどして具体的な改善につなげている。		ケアに関する自らの気づき・振り返りのために、できれば職員全員が自己評価に目を通し、項目を理解することが効果的な外部評価の活用となります。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度開催される運営推進会議は施設職員、地区の民生委員、地域住民が主なメンバーであるが利用者参加も確認された。意見交換の他、行事報告が行われている。	○	町の担当職員、隣接の社会福祉協議会の職員の定期的な参加が期待される。緊急時の応援体制作り、日々の利用者との馴染みの関係作り、地域密着型サービスとしての社会的役割を果たすべくために諸施設への幅広い声かけが望まれる。また、家族等の参加も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	21年10月に町が主催する認知症の研修にホームの管理者が講師として依頼された。今後も積極的に地域に貢献してゆく意向を持ち、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子をたくさんの写真と担当者のメッセージで綴り、毎月金銭報告とともに月に一度家族に知らせている。必要な時は随時連絡を取っている。		職員の熱心なはたらきかけにより、家族の来訪が以前より増した。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	県外在住の家族も少なくない中、利用者家族も参加する交流会を設けたり、通常のやりとりを通して関係を深め、意見を言い易い機会づくりをしている。意見があった際にはミーティングで話し合いを行っている。実施した『東郷温泉プラス観劇』のレクリエーションは家族の発案である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しないようにしており、利用者のダメージを防ぐ配慮を行っている。新人を採用する場合でもボランティアで参加して慣れてから採用するなど工夫されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修への参加を促している。またそのための勤務体制を整えている。	○	一人ひとりの職員が自主的な年度毎の目標設定を行い、研修計画に基づきスキルアップ、評価をしてゆく取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業者の管理者との話し合いや意見交換の場を持ち、サービス向上に取り組んでいる。	○	一般の職員についても同業者と交流する機会、相互研修等の活動の検討をされると良いでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学してもらい、あるいは併設の認知症デイサービスから段階的に慣れ親しんでもらうなどの工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの畑での野菜作り、調理、ちまき作りなどの伝統食作りなどの場面において、職員が利用者から学んでいる。利用者との外出を通して、職員も心から楽しみを見出している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある利用者には、一緒に帰宅して自宅の掃除や馴染みの品の持ち出しなど本人に寄り添う支援をしている。利用者の好きなカラオケ曲をアセスメントし支援に活用している。利用者の希望、意向の把握に努め、カンファレンスで検討、またセンター方式を取り入れている。		職員間で、利用者のその時々思いをキャッチする仕組みを工夫されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び本人を支援する関係者、担当で話し合い、医師からのアドバイスも得ながら、プラン作成につなげている。遠方の家族も多く全員集まることは困難であるが、家族とは連絡を密にして調節して、介護計画を作成されていた。	○	介護計画を作成段階で、利用者の情報を的確に確認できるようにシートに既往歴・趣味などの項目を加えて工夫して充実されることが望まれる。また、日々の支援経過記録を介護計画と連動させるシステムを職員間で共有できれば良いと思います。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにプランの見直しが行われている。利用者の状態の変化に応じて、家族・関係者に連絡を取り、随時見直しも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に沿って希望の受診介助を行っているほか、外食、外出、泊まりなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	江尾診療所がかかりつけ医である。眼科、耳鼻科などは日野病院が主であるが、眼科受診など利用者の希望にそって米子方面のクリニックに付き添う対応している。受診同行して適切な医療を受けるように支援していた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者について、法人として終末期を支援する方針があり、ターミナルにおいては、職員間で意識共有をはかり支援をしている。ホームの看護職員による健康管理、及び特別養護老人ホームの看護職員による緊急時のバックアップ体制がある。		町に唯一のグループホームであるが為、待機者の問題もあり、終末期について方針を周囲に問われている現状がある。様々なケースを想定した場合を含め、折々に、各家族に意思確認を取ること一案ではないでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を損なうことのないよう職員間で周知・学習をしている通り、関わり方・声かけについても配慮されていた。記録や個人情報も管理がなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れの中で利用者に無理強いすることなく、一人ひとりのペースを大切にしている。外出にも対応するなどきめ細かい配慮がなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じテーブルで食事をしている。一人ひとりの能力に応じて、食事の準備、後片付けをしてもらえるような場面を支援をしている。		
		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日は決められているが、拒否のある利用者について、仲の良い利用者と一緒に入浴することで抵抗を和らげるなど、利用者の要望に沿うような工夫がなされていた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	この4月、地域住民の協力を得てホームの玄関先に畑が完成し、野菜作りに利用者の力を活かす支援をしている。習字・手芸教室などの楽しみごとのほか、洗濯物をたたむ、食事の後片付けなど利用者の役割づくりの支援をしている。		
		○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて近所の商店街や公園、定期的にドライブを兼ねての食事会を実施していた。何度も外出したい利用者に対しても支援が柔軟に行われていた。		
(4)安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全体での鍵をかけないケアが共通の認識があり、日中は施錠しない取り決められていた。玄関の横にベンチがあり昼間は談笑する様子もうかがえ自由な雰囲気での暮らしを支援していた戸外へ出たい利用者の気配を把握するように職員間で確認をしている。		
		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施され、緊急時のマニュアルも整備されていた。隣接の同法人の施設の職員と緊急時の連携体制ができています。災害時に備えての備蓄については保存の効く食品で工夫をしている。近隣に民家はないが隣の社会福祉協議会の協力要請も検討されている。		さらに消防署、警察、地域住民にホームに関わってもらえるようはたらきかけが望まれる。スペースの問題もありますが、備蓄は3日分の水、食料、日用品が目安と言われています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士による。水分摂取量の記録がなされている。摂食障害のある利用者については、きちんと嚥下機能のテストを受け、状態に応じた食事形態にて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には目にも涼しそうな水槽、季節の花が活けられており、廊下には利用者の短冊を結んだ七夕飾りが立てかけられていた。キッチンからは包丁で刻む音が聞こえるなどごく当たり前の生活を感じさせる。不快な音・光・匂いが認められなかった。		時には室温計でアナログ的に確認することにより、職員と利用者の体感の差を補うのもよいかもしれません。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとゆったりとした椅子は備え付けである。その他は持ち込みのチェスト等が置かれている。山側の居室は畳仕様であり、場合によっては好みに副うことも可能だそう。職員の手作りの壁飾り、利用者の写真、掛け軸などで思いおぼいの居室に整えられている。		